

猫ひっかき病による鎖骨上窩リンパ節腫脹に 起因したシャント静脈高血圧症の1例

おだ がわ せい じ
小 田 川 誠 治

キーワード：猫ひっかき病，シャント高血圧症，鎖骨上窩リンパ節

要 旨

猫ひっかき病による鎖骨上窩リンパ節腫脹に起因したシャント静脈高血圧症の1例である。局在性のリンパ節腫脹は日常診療で経験することが多く、その診断には詳細な病歴聴取と疾患特異的な背景因子を収集する必要がある。本症例では、リンパ節腫脹の原因特定に、日常的な猫との接触と、猫からの受傷歴を聴取できたことが有用であった。加えて、リンパ節腫脹の原因を猫ひっかき病と診断できたことで、シャント静脈高血圧症の改善につながった。猫ひっかき病とシャント静脈高血圧症は、もともとは非常に関係性が薄いものであるが、詳細な病歴聴取によって両疾患の強い関係性を診断できた教育的な症例であった。

はじめに

猫ひっかき病は、猫によるひっかき傷、咬傷などが原因となる人獣共通感染症である。原因菌はグラム陰性桿菌の *Bartonella henselae* (*B. henselae*) である。臨床症状は、リンパ節腫脹、発熱、全身倦怠感などであり、一部の症例では肝脾腫、脳症、心内膜炎、骨髄炎などを呈することがある¹⁾。

シャント静脈高血圧症は、シャント静脈の狭窄や閉塞、相対的なシャント流入血流量の過剰によ

り、静脈鬱滞が生じることでシャント肢腫脹などを呈する状態である。

今回、鎖骨上窩リンパ節腫脹とその周囲の炎症が、シャント静脈を外部から圧迫することでシャント静脈狭窄を来し、その結果シャント静脈高血圧症を生じた症例を経験した。鎖骨上窩リンパ節腫脹の原因特定に、詳細な病歴聴取が有用であり、最終的に猫ひっかき病が原因であることを診断できた症例であった。

症 例

症例：62歳，男性

主訴：シャント肢腫脹（右上肢），全身倦怠感

現病歴：糖尿病性腎症を原疾患とする慢性腎不全

Seiji ODAGAWA

隠岐広域連立隠岐病院総合診療科

連絡先：〒685-0016 島根県隠岐郡隠岐の島町城北町355

隠岐広域連立隠岐病院総合診療科